

知って差がつく! ラメ糸トラブルの原因と対策12連発

状況と原因の予測

メーカーのアドバイス

9 ラメ糸が洗濯できない



ラメ糸は、同じ色形でも中身が多種多様です。「染色」で色を付けたものと、「顔料や染料でコーティング」したもの、または、金属面が露出しているものと、そうでないものなど様々です。洗濯が可能なものの・不可能なものも、現状合わせて「洗濯不可」表示されている事が多いです。

製品にした後、社内での「洗濯試験」の結果が満足なものであれば「洗濯OK」の表示をして頂いて構いません。

心配なのは、液流で回すことより、「漂白剤」や「アルカリ性洗剤」などです。

洗濯OKの表示を目指して企画される場合は、「ラメ糸メーカー」に相談された上で、グレードが高めのラメ糸をお使いになると良いです。

10 ベビー／インナーに使えない



ベビーアパレルさん、インナーアパレルさんで「ラメ糸の使用禁止」をされるケースも多いですが、それはラメ糸が見た目では品質が判断できないもの、故です。

「ラメ糸メーカー」と条件や品質を擦り合わせていけば、ご必要な際には使用可能です。

擦り合わせには時間がかかりますが、ラメ糸を使用したい企画をお持ちでしたら、直接「ラメ糸メーカー」にご相談ください。
【ベビー】に使いたい、【インナー】に使いたいと用途を明確にされて、クリアせねばならない『自社基準』などを細かく伝えられることも必要です。

「ノンホルマリン」にも色々あります

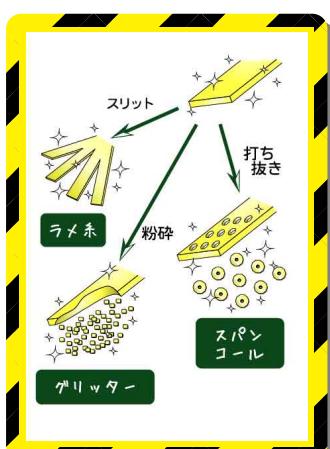
【含ホル】ホルマリン入り。

【低ホル】ホルマリンが少ない。

【ノンホル】0~0.05で法的にはOKだが、ホルマリンを使用している。

【ゼロホル】希塩酸試験をしても低数値が確認されている。ホルマリンを使用していない。

11 ラメプリントが変色する



プリントに混ぜられる「グリッター」(ラメの粉)も内容的にはラメ糸と同じ構造です(ちなみに「スパンコール」も同じです)。

よって 酸、アルカリ、漂白剤などで「変色」や「ラメ糸の消失」が起こります。反応染料プリントでは、一般的なグリッターは光沢が消失する事が多いです。

反応染料でのプリントでは「反応染色用のグリッター」を指定してください。

グリッターも基本的には「ラメ糸を碎いたもの」ですので、ラメ糸と同じような問題が起こり得ます。

12 「後加工」でトラブルになる



ラメ糸は「後加工」によって様々な影響を受けます。
(※「前処理」によることも)

よって様々な「後加工用のラメ糸」が存在しています。

ラメ糸を仕入れた後、「どのように使用したいか」を明らかにしてから、ラメ糸を選んでください。

「後加工」をすることが必須の場合は、ラメ糸の風合いやカラーの条件に加えて、「〇〇の加工に耐えるラメ糸」という一文を添えて手配されることが望ましいです。